

『図説・結核の病理』（岩井和郎著）発刊

第9回TBアーカイヴ事業推進・運営委員会報告

結核予防会

特命理事 竹下 隆夫

去る1月15日（火）に第9回TBアーカイヴ事業推進・運営委員会が開催され、最初に岩井和郎結核研究所名誉所長が著した結核予防会発行の『図説・結核の病理』について報告された。これは、戦前に中野診療所から寄贈されたものをはじめとする病理標本のうち、特に1936～1940年の化学療法無治療時代の結核症について、国内外での研究に供し、理解を深めていただくための教育・研修の教材とすべく、病理肉眼所見の写真に解説を加えて編纂されたもので、巻末には講義用スライド・CDも添付されている。

続いて、平成24年度のTBアーカイヴ事業収支見込み及び平成25年度事業計画案・予算案が事務局から提示され、承認された。

次に、アーカイヴ資料の電子化（デジタル・アーカイヴ）についての報告があり、協議された。これは、結核研究所の図書室に保管されている結核に関する和洋図書約8000冊のうち、貴重度が高く、紙質の保存

状態が劣悪で緊急を要するものを点検しつつあり、現状でそれに該当する約80冊について電子化しようとするもので、4社からの見積りとそれぞれの特徴等をめぐって議論された結果、2社からプレゼンテーションを受けた上で決めることになった。

また、杏資料館からの寄贈図書等の整理の進捗状況について、3分の1程度が終了している段階との報告があった。これは、昨年7月に段ボール箱にして約600個に及ぶ書籍と痰壺、器具、パネル等、杏資料館に所蔵されていた全ての資料をご寄贈いただいたものの仕分けとエクセルファイルへの入力、図書室内資料室等への保管作業で、痰壺については閲覧の要望が多く、4階講堂の陳列棚に展示している。

さらに、アーカイヴ資料図書一覧及び内容のウェブ上での公開について検討中であるが、内容については著者没後50年を経なければ許可を必要とする著作権問題が発生するという難しい点を含め報告された。

長崎大学連携大学院講座が始まります



結核予防会では、結核をはじめとする抗酸菌症の基礎及び臨床研究の専門家を育成する目的で、2013年4月より長崎大学との連携大学院講座を開設します。正式名称は「長崎大学大学院医歯薬学総合研究科新興感染症病態制御学系専攻抗酸菌感染症学講座」であり、基礎系の「基礎抗酸菌学分野（教授／研究指導教員・御手洗聡、准教授・大角晃弘）」と臨床系の「臨床抗酸菌学分野（教授・白石裕治）」で構成されます。

基礎抗酸菌学分野では抗酸菌の細菌学的研究と宿主の病態に関する研究を主要なテーマとしており、旧来の細菌学的あるいは免疫学的手法をはじめとして、分子生物学的な最新の技術や生物統計を駆使して新しい診断・治療法に寄与する研究と教育を実施します。臨床抗酸菌学分野では抗酸菌症の診断・診療・予防

結核研究所

抗酸菌レファレンス部長 御手洗 聡

複十字病院

呼吸器センター長 白石 裕治

に関する高度な臨床技術の修得を目指すとともに、薬剤耐性結核の治療、高齢者結核の治療さらには非結核性抗酸菌症の内科的・外科的治療に関する臨床研究を実施します。

このコースには前期（4月）と後期（10月）の入学が可能で、一部の必修科目を長崎で履修する以外は結核研究所と複十字病院で教育・研究を行います。4年間の研究期間を経て論文を提出し審査の結果学位論文として認められれば長崎大学から医学博士の学位が授与されます（論文でいくつかの条件をクリアすれば3年でも修了可能）。抗酸菌症を専門的に研究する博士課程は国内を見渡しても他にはほとんどありません。社会人入学も可能ですので、抗酸菌症の専門家を目指したい方には是非お考え頂きたいと思います。